

久枝地区タウンミーティング(要約)

テーマ：久枝地区のまちづくりについて

平成30年8月18日（土曜日）

【市長】 皆さん、こんにちは。今日は土曜日の午後ということで、皆さん方も何かと予定があったのではないかと思います。本日はこのようにタウンミーティングにご参加いただきまして、本当にありがとうございます。このタウンミーティングの開催にあたり、久枝地区まちづくり協議会の会長をはじめ地域の皆さんのご協力をいただきました。本当にありがとうございました。松山市のタウンミーティングですが、私が市長に就任させていただいた当初から始めています。市役所に座って、皆さんがお越しになるのを待っているほうが楽でしょうが、それでいいんでしょうか。松山市は旧北条市、旧中島町合わせて41区に分かれますけれども、私たちから各地区に出向いて行って、皆さんの声を聞かせてもらい、課題は減らして、魅力は伸ばしていきましようという思いでタウンミーティングを始めました。市長の任期は1期4年の48カ月です。41地区ですから、1カ月に1地区のペースで回って行こうと思っていましたが、おかげさまで好評になりまして、最初の4年で41地区を二巡りしました。今2期目に入っていますが、地区別のタウンミーティングに加えて、世代別のタウンミーティングを始めています。人生の先輩方に集まっていただくタウンミーティングや子育て世代の方、将来の松山を担う大学生や専門学校生、高校生に集まっていただくタウンミーティングなども開催しました。また、職業別タウンミーティングも開催していて、農業分野の方や商店街の方に集まっていただくタウンミーティングなどもしています。今日で、タウンミーティングの開催は110回目になります。本日は、皆さんといい意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

【司会】 次に、久枝地区での取り組みについて市長からご説明します。

【市長】 これまでの久枝地区タウンミーティングでご意見をいただきました代表的な事例について、ご紹介させていただきます。一回目は平成24年7月に行いましたが、タウンミーティングの中で、「通学路の横断歩道や停止線などが薄くなって、見えにくくなっている」というご意見をいただきました。6年前の平成24年4月に京都府亀岡市で、小学校に登校中の児童と引率の保護者の列に、一晩中車を運転していた若者の軽四自動車が突っ込み、10人が死傷する事故が起きました。松山市では、このような不幸な事例がないようにしようと、その年の7月に通学路の緊急の合同点検をしました。道路には、国道や県道、市道もあります。ですから、国や県の職員にも参加してもらい、PTAや地域の方々、警察の方々にもご協力をいただいて、通学路の総点検を行いました。市内全域でハード対策が必要なところが304カ所ありましたが、昨年度末までに265カ所の対策が完了しています。久枝小学校とみどり小学校の通学路ではどのよう

な対策をしたかという点、横断歩道を設置したり、水路にガードパイプを設置したりするなど、11カ所の整備を行いました。最初の点検から5年経ちましたので、久枝小学校では昨年11月に、みどり小学校では昨年8月に、2回目の合同点検を実施しました。久枝小学校については、対策が必要とされる危険箇所3カ所のうち1カ所にグリーンベルトを延長して設置しました。また、残り2カ所についても外側の線の引き直しや、ガードパイプの設置を予定しています。また、みどり小学校については、対策が必要とされる危険箇所4カ所のうち1カ所にグリーンベルトを設置しました。残り3カ所についても、横断歩道や停止線などの引き直しを予定し、また児童が水路に落ちることを防ぐために暗渠（あんきょ）化を検討しています。こうした対策は松山市のホームページに掲載していますので、ご覧いただけたらと思います。次に、同じく一回目の久枝地区タウンミーティングで、「開発団地の中の私道を市道にして、道路や下水道の整備を松山市ができないか」というご意見をいただきました。ご意見があったのは久万ノ台団地です。北側の私道は行き止まりで、自動車の回転する場所がないなど、松山市が設ける松山市道の認定基準を満たしていないことから、松山市の道路として認定することはできませんでしたが、下水道の整備は沿線の住民の方の利用や土地の利用者の承諾などの条件を満たしたことから、平成25年度から26年度にかけて下水道の整備を行うことができ、平成27年11月に道路の舗装を実施しています。私道整備事業というものがありますので、条件が合えば舗装することは可能です。今日はまちづくり協議会さんとご相談をさせていただいて、安全安心なまちづくりと地域活動の活性化をテーマにさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【男性】 私は民生児童委員およびまちづくり協議会の役員をしています。近年、豪雨や地震等の災害が多発しており、7月には中四国地方が豪雨に見舞われ、松山でも土砂崩れや家屋の浸水などの被害が発生しました。さらに、これから30年の間に南海地震が発生する可能性が非常に高いとも言われています。このような状況の中で、私たちは行政に頼るのみではなく、自分で自分の身を守ると同時に近隣の人も助け合っていかなければなりません。久枝地区も他の地区と同様に、高齢化が進んで独居や高齢夫婦のみの家庭が多く、災害時の避難や救助等の事前対策が必要です。独居老人に関する情報は民生児童委員会である程度把握していますが、高齢夫婦の状況は個人情報保護の観点からほとんど把握できていない状態です。また、高齢夫婦本人においても危険度の認識が低いことが懸念されている状況です。そこで、高齢夫婦の情報収集および防災意識の向上について、行政から関与や支援をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【市長】 避難行動要支援者といいますが、どこにどんな方が住んでいるかの名簿を持っていけば支援をすることが容易になりますよね。でも、中には情報を出してほしくない方もいらっしゃると思います。松山市では、まず、石井地区をモデルにやり始め、現在、市

内4地区に広げています。詳細は、保健福祉部の担当から説明したいと思います。

【保健福祉政策課長】 保健福祉部の石丸です。平成27年に行った石井地区の取り組みを参考に、現在、石井、三津浜、新玉、生石地区に名簿の提供を行っています。これについては、個人情報保護の関係からいろいろな問題がありましたけれども、審議会の答申を受けて、名簿の提供を市内ですべてしていますので、久枝地区でも取り組みをされたいということであれば、障がい福祉課にご一報いただけたらと思います。

【市長】 分かりやすくいいますと、専門家の方々に入っている審議会でルールづくりをしました。きちんと名簿を管理してくださる団体であれば提供して、いざというときに役立てていただく仕組みができていますので、久枝地区でもやりたいということでしたら、障がい福祉課まで遠慮なく言っていただけたらと思います。

【男性】 確認ですが、それは独居老人だけでなく、高齢の夫婦についての情報もあるのでしょうか。

【保健福祉政策課長】 高齢のご夫婦の情報も提供させていただいています。

【女性】 私は車を運転していて気が付いたことを言わせていただきます。先日も久万ノ台集会所の前で高齢の方がバスを待っているんですけども、炎天下で日陰がないし、バス停から離れて木陰に入ろうとするとバスが行ってしまうので、その人はどうか迷っていたんです。ほかには、かすり会館の近くですが、日陰がないので旗で日陰をつくって、その旗の下に入り込むような感じで待っている方もいらっしゃいましたし、山越ハトマートの前では、若い方がバスを待っていたんですが、今年は特に暑かったので、日陰がなく大変そうでした。よく免許証を返納してくださいと言われますが、公共の交通機関を使おうと思っても、ちょっとした椅子とか日陰とか雨宿りをするとこががあれば、もっと外出しやすいのではないかと思います。昔はベンチとか、ちょっと雨宿りできるものがありましたけれど、今は車中心の社会になってしまって、歩く人が置き去りにされている感じを受けました。それともう一つ、うちの近くに横断歩道があって、横断旗を設置いただけていますが、その旗が朽ち果てていますので、設置後の管理もよろしくお願ひしたらと思います。

【市長】 わかりました。今日、1時間半がタウンミーティングの時間ですけども、終わったらさっと帰るわけではありませんので、「横断歩道の旗はここです」と遠慮なくおっしゃってください。今日は地図も持ってきています。例えば、今日言いたかったけれど恥ずかしくて言えなかった方がいらっしゃいましたら、あとで道路や水路の関係で危ない場所などがありましたら遠慮なくおっしゃってください。今日のタウンミーティングは、できるだけこの場でお答えして帰りますが、中には国や県に關係する案件ですとか、また財政的な問題があるようなものや、よく考えなくてはいけないものは、ここでいい加減な返事をして帰るわけにはいきませんので、いったん持ち帰らせていただくことがあります。でも、1カ月をめぐりに必ず皆さんにお返事をお返しします。聞きつ

ばなしにしない、やりっぱなしにしないというのが松山市のタウンミーティングの特徴です。

【都市・交通計画課長】 都市・交通計画課長の丹生谷です。伊予鉄バスのバス停のことですが、後ほど具体的な場所をお伺いして、伊予鉄バスさんにそのようなご意見があったことをお伝えしたいと思います。

【市長】 伊予鉄道さんのバスや路面電車は、いわゆる公共交通という言い方をします。公共的な色彩が強いものですが、伊予鉄道さんやJR四国さんは民間の会社です。今、お話を聞いて思いついたのが、ロータリークラブさんやライオンズクラブさん、ソロプチミストさんなど、ありがたいことに寄付をしてくださる団体があります。寄付してくださったお金は、市内の公園のベンチにさせていただいたり、木を植えさせていただいたりしていますけれども、松山市への寄付を伊予鉄道さんのバス停のベンチ代に充てることについて、皆さんはどう思いますか。皆さんの意識で聞いてみたいんですけども、公共交通だから大丈夫という雰囲気ですかね。皆さん結構うなずいていらっしやいますけれども、さまざまなご意見もあろうかと思いますが、皆さんの受け取りを聞いてみたくてお伺いました。

【男性】 町内会長をしています。新しい年度に入ると、4月、5月に、町内各組30組から要望事項を募ります。カーブミラーをつけてくれとか、街灯をつけてくれとか、市道に穴があるとか、いろんな問題が出て、それを役員が調査して、市等に対して要望をお願いしています。大体30組から30～40件の要望事項があります。毎年必ず出てくる久枝地区の問題が、久万ノ台から安城寺の北のほうまで通っている久万川の要望です。久万ノ台そして西長戸辺りが、ずいぶん幅が狭く、久万川がこの5年間で2回氾濫しました。10件くらいが床下浸水で、今後も温暖化で水量も増えてくると思います。住宅地がずいぶん増えてきて、県の問題にもなるかと思いますが、せっかくの機会ですので発言させていただきました。ぜひ検討いただきたいと思います。今日は、要望事項で出てきたことと、今までに氾濫して床下浸水を受けたところの地図を持ってきましたので、提出させていただきます。よろしくお願いします。

【下水道政策課長】 下水道政策課の白石と申します。お持ちいただいた地図は、あとでいただけたらと思います。久万川の件ですが、久枝地区の久万川流域で川幅が狭いことにより浸水が多く発生していることは、下水道部でも十分認識していて、これまでも県と度々話をしています。久万川は県の中予地方局の担当ですが、中予地方局が管理する県管理の河川は約550kmあり、被害の大きいところから優先してやっている関係で、改善するのに時間をいただいている状況だそうです。順次、河川改修事業に取り組んでいますが、すぐにできることとしては、例えば河川にたまっている土砂をしゅんせつするなど、予算が付き次第、順次やっているところもあります。また、具体的な場所など、今回いただいたご意見を県に改めて伝えたいと思いますし、折に触れて協

議もさせていただきます。

【市長】 先日、市場から松山西中等教育学校に向かう道と、かすり会館から久枝小学校に向かう道の交差点辺りの件で、地元の市議会議員さんからもお話を伺いました。愛媛県管理の久万川ではありますけれども、愛媛県と連携をしながら、いい解決策を見出したいと思っています。

【男性】 久万川の話に関連してですが、私は、町内の役員をしている関係で、去年の台風のときも、今回の豪雨のときも、バイクで町内を回りました。久万川と潮見小学校辺りを流れる大川を見ましたが、200ミリくらいまでは大丈夫そうでした。写真も撮りましたが、それ以上降ると溢れます。以前、潮見小学校の前がつかったこともあります。今回、みかん畑がやられたり、各地でいろいろな被害があつたりしました。急に避難情報が出て、我々はどこに逃げたらいいか分からない状態でみんなパニックになったと思います。今回の被害状況を集約した上で、もう一度防災マップを整理する必要があると思います。防災マップは、どちらかといえば地震を中心に考えているのではないのでしょうか。風水害では低い所にある公民館が避難場所になっていますので、もう一度、総合的に見直す必要があるのではないかと思います。私が20数年前にこちらに引っ越してきたときは、和気街道は周りが全部田んぼでした。それが今、全て宅地になっていますから、流れた水は全部、久万川や大川に注ぎ込むわけです。もう一度そのあたりを考えてほしいと思います。

【危機管理課長】 危機管理課の川崎です。ハザードマップの見直しということですが、松山市は、平成27年2月に防災マップを全戸配布させていただきました。確かに配布して、3年も経過している状況ですので、内容等についても見直しの必要があると考えています。今回の豪雨災害のことや、雨量が増えてきている状況もありますので、そういったことも踏まえて、今後わかりやすく、皆さんにお知らせできるようにしたいと考えています。

【市長】 豪雨の話が出ましたので、私から先日の西日本豪雨についてお話ししたいと思います。7月上旬に西日本豪雨が起り、亡くなった方もいらっしゃいます。亡くなった方に心から哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた方に心からお見舞いを申し上げます。人的被害として、松山市では4名の尊い命が失われました。重傷者が2名、軽症者が1名、住宅被害は、全壊13棟、大規模半壊12棟、半壊11棟、床上浸水36棟、床下浸水347棟となっています。また、松山市道は343カ所に被害がありました。ため池60カ所に被害があり、土砂崩れは松山市全体で261カ所もありました。私も時間の許す限り、被害の多かった島しょ部の興居島や中島、沿岸部の高浜、山間部の北条南部などに足を運びました。土砂崩れの被害が多かった高浜地区は、生活道が非常に狭くて、車両や重機が入れません。ですので、より一層の人手が必要と考え、7月10日と11日の2日間に、職員延べ300人を追加して、土砂の撤去など

に当たるように指示をしました。このような状況を受けて、松山市は7月豪雨災害への対応として33億円の予算を組み、被災者の生活再建を支援するさまざまな取り組みを始めました。民有地の危険物の除去や災害廃棄物の処理、そして農家さんも被害を受けています。野外活動センターもかなり傷みました。被害の拡大や二次災害の防止のため、農家さんが農業を続けていくための支援のほか、公共施設の復旧などにスピード感を持って取り組んでいるところです。我々も全力で復旧に取り組んでまいりますし、いろいろ見直しを重ねていきたいと思うのですが、ぜひとも皆さんにお願いをしたいのは、市内すべてのご家庭にお配りしている防災マップのことで、どこにあるかご存知ですよ。ご家庭に帰られたら、ぜひ防災マップを見てください。役立つ情報がいっぱい載っています。防災マップは、松山市役所だけでつくっているのではなくて、愛媛大学防災情報研究センターの専門家の方々と一緒につくっているものなので、かなり専門的見地からしっかりしたものができています。一度つくり、その後、東日本大震災が起こった際に改訂しました。そして、現在、国でも松山市でも、1週間分の備蓄をしてくださいとお願いしています。もちろん公でも備蓄はしていますが、災害のときには、公平性の観点から皆さんに並んでいただく必要があります。一週間分の備蓄を皆さんでしていただいたら、並ばなくても手に入る、好みのものが手に入ることになります。もちろん公でもやれることをしっかりやっていますが、自助という言葉がありますように、皆さん自身でも備えていただきたいと思います。

【女性】 私は、民生児童委員やまちづくり協議会に携わらせていただいています。高齢化が指摘される中、地域としてもサロン活動や高齢クラブを通して交流しています。しかし、その交流の場所は、公民館や分館しかありません。お年寄りが思いついたときに気楽に集まれる場所が必要かと思います。そのほかの公共施設や空き家など活用を検討したいところですが、行政の関与や支援はあるかお尋ねします。

【市長】 先ほど防災のお話をしましたが、できるだけつながっていただきたいと思っています。隣は何をする人ぞではなくて、できるだけつながっていただいたら、いざという災害のときに、「あそこのお家にはおじいちゃん、おばあちゃんがおるけど、避難所まで来られていない、どうしているんやろうか」となります。公民館以外で、まちづくり活動の拠点となっているところの例をご紹介します。八坂地区では、お寺をサロンの会場として、お茶を出したり、皆さんが集う場所に行っているところがあります。いろいろ知恵と工夫でやれるようなことがあると思いますので、担当から補足説明をします。

【市民部長】 市民部長の津田です。八坂地区まちづくり協議会が開いているのは、「ふれあいカフェ」という名前です。高齢者の方やいろいろな方々にお集まりいただいて、お茶でも飲みながら世間話をしていく取り組みです。先般、久枝地区まちづくり協議会が発足したところですが、その中で、まちづくり計画がつけられているのではないかと思いますけれども、皆さんがまち歩きを実施しようというお話があると聞いています。

そうした活動で、「ふれあいカフェ」のような場所を見つけていただいて、皆さんが集まりやすい拠点にしていただければと思います。そして、まちづくり協議会でどういった支援ができるか、相談させていただければと思います。

【女性】 私は、まちづくり協議会の役員をしています。久枝地区も高齢化していて、公民館の利用をするときに、2階まで上がるのがすごく大変です。私も障がい者を抱えていて、こういった会にも参加させてやりたいと思っても、おんぶして上がるわけにもいかないので参加させませんでした。敷地などいろいろな問題があるので難しいとは思いますが、高齢者が利用しやすい場所へと改善されたらもっと利用しやすいのではないかと思います。私は新聞屋さんをしているので、独居老人の方とか空き家問題のこともいろいろ考えることがあります。先ほども言われました「みんなが集まりやすい場所」として、うちの空いている場所でも利用してもらおうかなと思うんですが、やはり先立つものがないので、なかなか難しいです。何かをすることになったときに支援を受けられることがあれば、ぜひ活用させてもらって、一つ成功すればまた違う場所にと、小さなところからどんどん広げていければと思います。久枝地区に何個あってもいいと思うので、どうすればいいのか、手段やノウハウを教えてくださいたいです。市も大変なことはよくわかっているので、地域の皆さんの力で少しずつ前向きにやっていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

【市民部長】 まちづくり協議会の取り組みの中には、いろいろな事例があります。市民参画まちづくり課の職員が、皆さんの地域に出向いてアドバイスなど、他の事例も踏まえてお話を進めているところだと思います。その中で、市役所からの支援としては、補助金のメニューもあります。ただ、久枝地区のまちづくりとして、何をメニューの中心にしていくか大きな計画をつくってもらうことが最優先だと思いますので、そうした計画の中でこの話を進めていただければと思います。

【市長】 先日、久枝地区にまちづくり協議会が立ち上がりました。冒頭に、松山市は41地区ありますと申し上げましたが、案外それぞれの地区がどんな活動をやっているか皆さんご存知ないんです。それで、各地区の活動を知ってもらうための会（地域力パワーアップ大会）を年に1回やっています。例えば、桑原地区には東雲大学や愛媛大学農学部がありますが、大学生や留学生に参加してもらって、フリーマーケットや異文化交流などをしているのが、桑原地区のまちづくり協議会です。そして、桑原地区には、西に松山城や総合公園フライブルク城が見えて、その向こうに瀬戸内海も見える淡路ヶ峠（あわじがとう）という非常に見晴らしのいい場所がありますが、その登山道を桑原地区まちづくり協議会の方々が整備する例もあります。また、三津浜地区では、まちづくり協議会、包括支援センター、高齢クラブ連合会が共同で年に3回、高齢者の集いを開催して、家に閉じこもりがちな高齢者の方に出てきてもらって、健康体操や茶話会などで交流を図っている事例があります。まちづくり協議会のことで知りたいこと

があれば、どうぞ遠慮なく市民参画まちづくり課に言ってください。各地区が知恵と工夫を凝らしながらされていますので、事例をお教えすることはいくらでもできます。また、まちづくり活動を知ってもらう地域力パワーアップ大会も年に1回やっていますので、ぜひご参加いただけたらと思います。

【男性】 私は、まちづくり協議会で生活安全部に入っています。JA久枝支所前の県道交差点で事故が多発しているのです、最低でも感知式信号機の設置をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【市長】 結論から言うと、できるようになりました。皆さんにわかりやすくお話しします。信号を設置して赤信号を出して止まりなさいとか、時速30キロなど路面表示をして人を規制するのは警察です。実は3年前に「JA久枝支所の交差点は交通量が多いので、現在の一灯式（一つだけ点滅する信号）を、三灯式の信号機に変えてください」という要望が地元からありました。当時、警察と道路管理者である県と現地を確認して、松山市もそこに立ち会いましたが、警察からは「信号機の設置には信号の柱を設置する場所の確保が必要なので設置は難しい」という回答がありました。今回、再度ご意見を警察にお伝えしたところ、「現在の信号の柱を利用した新しい三灯式の信号機が開発され、設置が可能になり、今年度中の完成を目指して、この交差点への設置に向けた取り組みを進めている」との回答をいただきました。今年度中には新しい三灯式の信号機になるとと思いますので、もう少しお待ちいただけたらと思います。

【男性】 東長戸町内会で市に要望事項としてあげていますが、東長戸には公園がありません。東長戸には、現在約1,300戸、3,500名がいます。高齢者や青少年、幼児、子どもたちが安心して遊べる憩いの場がありません。土地やお金の問題も絡んでくると思いますので、なかなか難しいと思いますが、頭の隅に入れていただいて、何とかしていただけたらと、町内会として要望いたします。

【都市・交通計画課長】 新しく公園を設置する場合は、用地の選定や取得のほか、整備後の管理などについて一定の条件があります。例えば、身近な公園である街区公園の場合は、用地の選定は近くの公園から500m以上離れていることや、面積1,000㎡以上であること、また道幅4m以上の道路に接していることなどの条件があります。また、用地の取得では、所有者の方や隣接している方の同意が得られることや地元土地改良区などの方が事業に協力できることなどの条件があります。町内会などで具体的な場所等のお話がありましたら、公園緑地課までご相談いただければと思います。

【市長】 今、市長をさせていただいて7年半ですけれども、財政的な話をさせていただいたらと思います。財政的な話をすると、皆さんの手が挙がりにくくなったりするんですが、気にせずに言っていただけたらと思います。できるだけわかりやすくお話ししますが、皆さんも新聞やニュースなどでご覧になるとと思いますが、国は1,000兆円を

超える借金を抱えています。国から地方には、地方交付税交付金とか国庫支出金という形で、地方にお金が配分されますけれども、仕送りと似たところがあって、親元が苦しいので仕送りが増えるとはとても考えにくい状態です。これは松山市だけではなく、全国の自治体がそうです。この中で「わしは税金を払いたくてたまらんのよ」という人はいないと思います。でも、皆さん思い浮かべていただいたら、ごみの回収もごみ収集車が必要ですし、ごみを回収する人が必要ですし、ごみを燃やすにはクリーンセンターが必要になり何十億というお金をかけてつくります。できるだけごみを少なくすると、そこにかかる税金は節約でき、クリーンセンターは長持ちしますので、松山市はごみを少なくする取り組みをやってきて、9年連続日本で最少となり、皆さんにご協力をいただいています。今、少子高齢化で子どもの数が少なくなっているということは、働いて税金を納めてくれている人の数は少なくなっているんです。私は51歳になりましたが、私もいずれお世話になる年齢になりますけれども、高齢になってお世話になる人のほうが増えていっているんですね。ですから、国から回ってくるお金が減っていて、やりくりをしていかななくてはいけないというのが全国どこの自治体もそうです。この久枝公民館もそうですけれども、高度成長期の時代につくった建物が40年くらい経ってだいぶ古くなってきています。例えば、子どもたちの給食をつくる学校給食調理場もだいぶ年数が経ってきて作り替えないといけません。給食調理場ですから、ゴキブリとかネズミが入るようなことがあってはいけません。密閉性もちゃんとしないといけないし、熱や水を使い、湿度も高くなりますから、かなりしっかりしたものをつくらなくてはなりません。例えば今まで10個あったのを、道もよくなったので、共同でして数を減らしていくとか、そんなことも考えながらやりくりをしながらやっていかないと難しいというのが各自治体の財政の状況だと思います。ですので、今回の豪雨災害があって、まず33億円支出しますが、何かあってはいけませんので、今年はこれだけお金を残しておこうねという中から、33億出せることにはなったわけですけれども、家計と一緒に必死にやりくりしながらやっている現状です。子どもや孫の世代にきちっといい松山を残していきたいと思っていますので、とにかくやりくりをしながらやっているのが現状です。ですが、皆さんはこういうふうにしてほしいと言ってください。言ってもらったほうが皆さんのニーズを把握することができますから、言っていただいたらと思います。でも、中にはできないこともあったり、すぐにはできないけれども、少し先になってしまう事柄もありますので、ご理解をいただけたらと思います。先ほどの公園の話でいいますと、時代に合ったものにしていきたいので、ワークショップの作業部会をやって、例えば久万ノ台緑地や久万ノ台公園、鴨川公園には複合遊具を入れたり、ブランコや鉄棒などの遊具のほか、健康器具やベンチなどを新たに設置したりしました。また、ボール遊びができる公園がほしいということで、久万ノ台緑地など、ボール遊びができる公園も周りの方にお話をしルールづくりをしながら増やしていているところですよ。皆さんのニーズにはできるだけ沿っていきたく思いますので、言っていただいた

らと思います。

【男性】 私は、まちづくり協議会で活動しています。回答をお願いするわけではありませんが、市から人間的、財政的な支援をいただき、今年2月にまちづくり協議会が設立されました。設立されたあとも、支所に事務所を置かせてもらうなど、支援をいただいています。まちづくり協議会は、これからまちづくりの計画も立てていきますし、地域内の認知度もそれほど高くないので、知ってもらって、地域をよくする活動をしていかなければいけないと思っていますので、引き続き、支援をよろしくお願いします。

【市長】 私からお伺いしたいのですが、久枝公民館の駐車場はそんなに広くないですが、駐車場のニーズについてどう思われていますか。

【男性】 久枝地区は現在、約6,000世帯、人口約1万9,000人いますが、公民館の建屋が小さいため、駐車場もありませんし、会議室は2階にしかないので、お金もかかることではありますが、建て替えをご検討していただければありがたいです。公民館は、避難場所にもなっていますし、ご覧のとおり一番大きい大会議室がこの広さです。小学校にも避難するとは思いますが、キャパシティが非常に小さいので、公民館に来た被災者に十分な対応ができるかという観点からも、近い将来に検討をお願いしたいと思います。

【生涯学習政策課長】 教育委員会事務局の高木です。公民館の建て替えの話がありましたが、皆さんも耐震化という言葉をよく耳にするとと思います。この耐震基準は、昭和56年に改正されて、松山市は多くの建物を持っていますが、耐震基準前、昭和56年以前の建物を優先的に建て替えることをしています。そして、久枝公民館は昭和61年3月に建築され、今の耐震基準を満たしているので、今のところ建て替えの予定はありません。ただ、今年度と来年度に、教育委員会の施設の長寿命化計画を立てることにしています。全国には小学校と公民館を複合した施設もありますので、そのような視点も加えながら検討したいと思います。

【危機管理課長】 危機管理課長の川崎です。避難所としては、先般の豪雨災害時には、小学校ではなく、公民館を避難所として開けさせていただきました。7月5日から雨が降り続き、6日もかなり強い雨でしたので、まず山際の方に避難していただく必要があるということで、防災行政無線やモバイル松山消防などを使って、山際の方は危険を感じたら早く逃げてくださいということをして6日の夕方5時くらいに入れました。そのあと、順次、自主避難者を受け入れるために公民館を開けていきました。特に暑い時期で、小学校の体育館ですと、かなり蒸し暑くなるため、各地域の公民館にしましたが、その状況は、随時、災害対策本部に入ってきますので、避難者が多くなってきて受け入れが難しくなった場合は、小学校に拡大したりということは考えていました。いろんな時期がありますけれども、暑い時期や寒い時期には自主避難される方のために、公民館は重要

な施設だと考えています。

【市長】 駐車場は足りていますか。

【男性】 足りません。

【市長】 例として、松山で一番大きな地区である石井地区での1回目のタウンミーティングで「石井支所・公民館の駐車スペースを増やしてもらえないか」という話があって、隣に民間の駐車場があったので借りる台数を増やしたことがありました。久枝公民館東側の駐車場には、公民館の駐車スペースが5台分あるのですか。

【男性】そこは、支所の駐車場なんです。

【市長】 夜、公民館を利用する際に支所の駐車場を使うのは大丈夫ですかね。先ほどの石井公民館も何とかしてもらえないかという話を受けて、借りることができましたので、できるだけ言っていただいたほうがいいです。私が就任させていただいたときは、小学校、中学校の耐震化がまだで、消防ポンプ蔵置所も耐震化されていなくて、いざ出動しようと思っても崩れてしまったら出動できないですよ。小学校や中学校、幼稚園や保育園、消防ポンプ蔵置所や公民館の耐震化を急いでできました。今、2階建ての消防ポンプ蔵置所が終わって、平屋のポンプ蔵置所をどうしていくかというところです。小学校と中学校の耐震化は終わりました。公民館はあと一つ残しています。順番にやっているところですが、公民館によってはトイレが男女共用になっていて、利用しにくいところがあると思います。男女別にするとか、バリアフリーにするとかできるだけ考えていきたいと思います。

【男性】 7月豪雨の際、テレビで久枝地区避難勧告の情報を見ました。久枝公民館に避難所を開設されたのが、時間的に遅れたような気がします。避難勧告が出されると同時に避難所は開設されていたのでしょうか。タイムラグがなかったのかお尋ねします。

【市長】 皆さんもニュースや新聞でご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、避難には3段階あります。避難するのに時間がかかる方は避難しはじめてくださいという高齢者等避難準備情報、避難を勧める避難勧告、もう一つ強まると避難を指示する避難指示の3段階に分かれます。私も対策本部に詰めることになってはいますが、どのような動きをしているか危機管理課長からお伝えします。

【危機管理課長】 危機管理課長の川崎です。まず、避難情報を発令する際には、基本的に避難所を開設した状態になってから発令するようにしています。久枝地区の場合は、まず自主避難される方のために、午後10時10分に久枝公民館を開設することができました。そのあと、翌7日の午前2時10分に久枝地区に避難準備高齢者等避難開始を発令し、最終的には7日の朝5時に避難勧告に切り上げしました。ですので、まず避難準備情報を出した段階では、すでに避難所は開設された状況でしたので、ご理解をお願いします。

【市長】 我々が避難情報を出して、場所は久枝公民館だということで避難してきたと

きに戸が開いていないと困ります。そしてどんどん皆さんお越しになって、大変なトラブルになりますから、まず避難所が開かれたことが分かってから出すことにしていますので、ご安心ください。

【男性】 私は、自主防災連合会で活動をしています。先般、避難所が開設されたときは、避難者はいなかったんですが、避難された方がいた場合、冬場とか緊急のときに食料や毛布の備蓄がここにはないと思うので、最低限のものは置いていたほうがいいのではないのでしょうか。

【危機管理課長】 避難所に毛布や飲み物、食料などが必要になりますので、現状では小学校に少しずつ備蓄を進めていて、置いていないところは、本部から物資班が市内の備蓄倉庫、この地区では馬木にある消防の城北支署の備蓄倉庫から必要な資機材を搬入するようになっていきます。おっしゃるとおり、物資があったほうが効率的に動けるので、公民館などに分散備蓄を少しずつ始めているところです。例えば発電機やリヤカーなどの資機材は公民館に配備していて、食料等については、今後、順次、配備していきます。

【市長】 坊っちゃんスタジアムのスタンドの下に集中的に備蓄していますが、熊本地震を受けて、分散備蓄をしたほうがいいということで、今できるだけ分散備蓄をするようにしています。市職員は、東日本大震災や熊本地震があったとき、助けに行くことと、松山で何かあったときの参考のため行きました。熊本地震で勉強になったのは、特に避難所では男性と女性を最初から分けておかないと大変なトラブルになるということです。熊本地震では、避難所で若い女性が寝ていて、朝起きたら横に知らない男性が寝ていたとか、仕切りがないので授乳や着替えがしにくい例がありました。これは最初から決めておけばやりやすいですけれども、途中からするとなかなか難しいです。当初から男性用、女性用、家族で過ごすところなど、細かい配慮をしなければならないことを熊本地震の支援に行って教えていただきました。これからも各事例を参考にしながら、より防災力を高めていきたいと思っています。

【男性】 私は、まちづくり協議会で活動をしています。私たちがやらなければならない宿題もだいぶ出たかなと思います。久枝地区は住宅街と田園地帯が複合的にある地区で、新築の住宅地が増えていますが、その反面、空き家がずいぶん増えています。空き家は草が生えて困るとか、防犯上の問題がありますし、農村部では農業をやめて放棄地が増えています。例えば、空き家対策について、国は法律ができていますけれども、松山市の条例化はまだだと聞いていますので、その点についてお聞きしたいと思います。久枝地区には、空き家問題や川の問題、地区の真ん中を通る県道の問題があります。また、県道から東西に生活道路があり、そこに水路が結構あって、通学路はガードパイプができていますが、それ以外はできてなくて、結構落ちています。年寄りも落ちていますし、子どもも落ちています。暗渠（あんきょ）化を全部するのは水利組合との問題

があろうかと思います。何とか対策を取ればいいと思って、もろもろ申し上げましたが、私どもも何とか努力をします。行政としても出せる手は出していきたいと思えます。

【市長】 暗渠化のことをできるだけ分かりやすくお伝えしたいと思えます。松山市の各地で田んぼに水を引くために水路がありますが、水路をもともと利用されている方がいらっしやるので、水路を利用されている方の了承をいただかないといけません。水路を利用される方のご意見は、さまざまですが、例えばふたをしてしまうと、水を汲み出しにくくなるとか、つまったごみの掃除がしにくくなるという方もいらっしやいます。

「市長、ずっとガードレールを付けてくれたらいいんよ。ほんなら子どもら絶対安心やろ」というお声もありますけれど、そうなる沿道に車を停めていらっしやる方の出入りがしにくくなるところもあるので、沿道の方のご協力がいるわけです。場所によっては、暗渠化することによって道幅が広がって、逆に抜け道になって車のスピードが上がって危なくなる例もありますので、そういったことも考えながらできる限りの安全対策をしているところです。安全対策ができないところは、本当にありがたいことに地区の見守り員の方々がパトロールをしてくれていて、ハード対策があつたりソフト対策ができたりしているのが現状です。

【都市・交通計画課長】 ご指摘のように空き家の増加が全国的な問題になっている中、いわゆる「空家法」が平成27年5月に施行され、所有者への指導や対策の実施が、市町村の責務として法制化されています。この空家法では、所有者に空き家の適切な管理を義務付けていて、松山市では管理が行き届いていない空き家の情報が寄せられた場合は調査を行い、所有者を特定して、生活環境への悪影響などを所有者に伝えた上で、是正のための助言や指導を行っています。また、自主的な対応が得られない場合は、法に基づく権限の行使を視野に入れた対応を行っています。これまでに6件を危険な老朽空き家として認定し、強い指導を行った結果、所有者が空き家を取り壊すなど、6件のうち4件の是正につながっています。加えて、空き家の抑制も重要ですので、空家等対策計画を今年3月に策定し、所有者が抱える空き家の利活用に関する問題の解消に向け、空き家相談窓口や空き家バンクの設置等を検討しています。

【市長】 分かりやすく申し上げたいと思えますが、国がつくるのが法律、県や市がつくるのが条例になりますが、ちょうど国が空き家の法律をつくることになって、法律に基づいてやれるようになったので、より強い指導ができるようになったんです。また、松山市だけでできることもあつて、三津浜での事例があります。三津浜の商店街や古い街並みがありますね。いい街並みの空き家と借りたい人をマッチングする「ミツハマル（三津の魅力にはまってほしいという意味）」という拠点施設をつくって、これまでに20件以上の空き家が店に変わっています。ですので、このようなマッチングができるようなことも松山市として考えていきたいと思っています。空き家で困っていることがあれば住宅課がありますから、遠慮なく言っていたらと思います。

【市民部長】 耕作放棄地の話が出たと思いますので、現在、松山市がやっている取り組みをご説明させていただきます。松山市では、農地の集積とか耕作放棄地を抑制するために、貸し付けを希望される農地の情報を市のホームページに載せています。また、耕作者を募り、農地を借りたい農業者の方の登録をした上で、貸し借りをを行う農地中間管理事業を実施しています。これは農林水産課が担当していますので、ご相談いただければと思います。そのほか、全国の事例を申し上げますと、耕作放棄地を借り上げて、シルバー人材センターが責任を持って運営している事例があります。シルバー人材センターは松山にもあるんですが、お伺いしたところ、機材の確保や指導者の確保などができるようになれば、挑んでみたいという声もいただいています。これは参考までのお話です。

【女性】 私は、久枝まちづくり協議会の活動をしています。去年2月から松山城ウォーキングのスタンプが始まり、かなりたくさんの方が城山に来られていますが、7月6日の豪雨災害のあと古町の登山道が閉鎖されているので、たくさんの方が困っています。今日、市長さんにお会いするので、いつごろ復旧が可能かを聞いて、皆さんにお返事したいと思っていますので、災害地のほうが優先というのは分かっているんですが、だいたいのおめどをお聞きしたいと思います。

【市長】 結論として、急ぎます。実は松山城に毎朝登られて、上でラジオ体操をされる方々がいらっしゃいます。今、男性の平均寿命が81歳で、女性が87歳になりました。健康寿命との差が約10歳あり、男性は72歳、女性が74歳からの10年は健康をちょっと悪くしてしまっただけという、健康寿命と平均寿命の差があるんです。これをできるだけ縮めていきたいし、皆さんが最後までお元気でいらっしゃるようにしていきたいです。そういう中で、松山城のスタンプをつくって、100個スタンプがたまれば表彰状をお渡しする仕組みを導入させていただきました。松山城のチケット売り場のところにスタンプを置いています。確かに、今回の豪雨で道後温泉本館や松山城の建物にはほとんど影響がなかったですが、登山道は若干、傷んでいます。古町のほうから上がる道も傷んでいます。登る方がいらっしゃいますから、できるだけ急ぐように伝えておきます。今、いつできるというのは言えない状況ですけれども、できるだけ早くしたいと思います。

【男性】 私は、まちづくり協議会の活動をしています。支所のトイレの件でお尋ねしたいのですが、先ほど市長さんからもトイレの男女共用は使いにくいというお話をいただきましたが、支所のトイレが「男女共用」と「車椅子、お子さんのオムツを変えるトイレ」の2カ所になっているんです。トイレは全身の力を抜く場所であってほしいと思いますので、何かいい対策はないものかご相談します。

【市長】 昭和50年代ぐらいにつくられた公共施設が多いので、当時はそこまで考え

られてなかったのだと思います。各公民館で男女共用になっているトイレがあると思いますが、各地区から個別にしてくださいという要望が来ていると思いますので、状況を見て順番をつけながらやっていくことになろうかと思います。しっかりと受け止めさせていただきます。

【市長】 今日、皆さんから「久万川の水をもう少しきれいにならないのか」というお声が出るかと思っていましたけれども、私から最後にこの説明させていただいたと思います。下水道の処理施設はきれいにして海に流しますから、最終的な処理施設は海の近くということになります。北部でいうと、和気の方になります。和気の方に処理施設があつて、どんどん上流に向かってのぼしていく形になり、久枝地区は上流部にあたりますので、計画的に延ばしていますけれども、下水道整備がなかなかです。平成一けた代は、国もお金を貸すから、下水道をどんどん延ばしていきましょうという時代があり、1年間に160億円かけて松山市全体に下水道を延ばしていく計画だったんです。でも、160億円は無理ということになって、前市長のときに80億にされて、もう1回見直して1年間に65億円になりました。昔は、金利が高かったので、国もそうやって松山市に地方自治体にお金を貸して、その金利をあて込むという感じだったんです。だから、各家庭もそうだと思いますけれど、高い金利のものは低い金利のものに借り換えたいじゃないですか。でも、なかなか国もその借り換えを許してくれなかったりするような、せめぎ合いもあつたりします。以前に比べると下水道の整備費用もそんなにかげられなくなっているの、計画的に下水道を延ばしていついってるところですが、久万川の水がいつまでもきれいにならないのはいけないので、久万川周辺を水質改善優先整備地区に平成26年度から指定しました。合併処理浄化槽の5人槽をつける場合は通常44万4,000円の補助ですが、安城寺、鴨川3丁目、久万ノ台、高木、問屋町、西長戸、東長戸1丁目～4丁目、船ヶ谷のそれぞれの一部については、60万円の設置費補助があります。7人槽の場合は通常48万6,000円の補助がこの地区については70万円上限で費用を補助し、10人槽については通常57万6,000円の補助が、この地区は90万円まで設置の補助があることになっています。下水道が延びてくるのを待つのではなくて、優先的に整備して水質改善をしていくという形で、できるだけ久万川の水をきれいしていこうとしています。BOD（生物化学的酸素要求量）という値があるんですが、昭和59年から63年頃は19.2だったのが、平成20年から25年に9.3と半分以下になりました。平成26年から29年はまだ下がって8.3になり、だいぶきれいになってきたかなと思っています。今日は最初手が挙がらないかなとも思ったんですけれども、皆さんあまり重なることなく手を挙げていただいて、さまざまな意見を教えていただきました。とにかく松山市のタウンミーティングは聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにしないということを110回大事にしてきました。たちまちできることもあれば、ちょっと時間がかかってしまうこともありますけれども、で

きるだけ皆さんの声を市政に反映していきたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いします。今日はありがとうございました。

—了—